

知財実務家の 進化： 作業員から アーキテクトへ

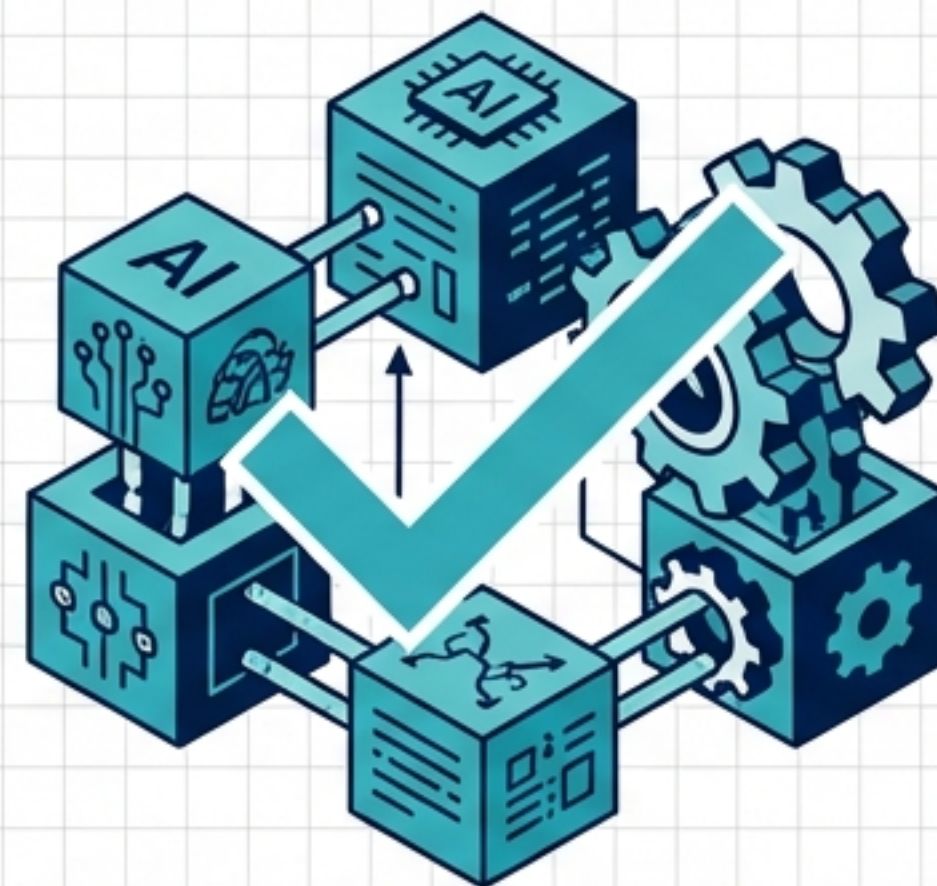
AIエージェントが再定義する
企業知財の組織モデルと
実装プレイブック

知財業務は「書類作成」から「システム設計」へ



従来の実務 (Operator)

- 役割: 目の前の案件を人力で1件ずつ処理するプロセッサー
- 限界: 人間の労働時間によるボトルネック

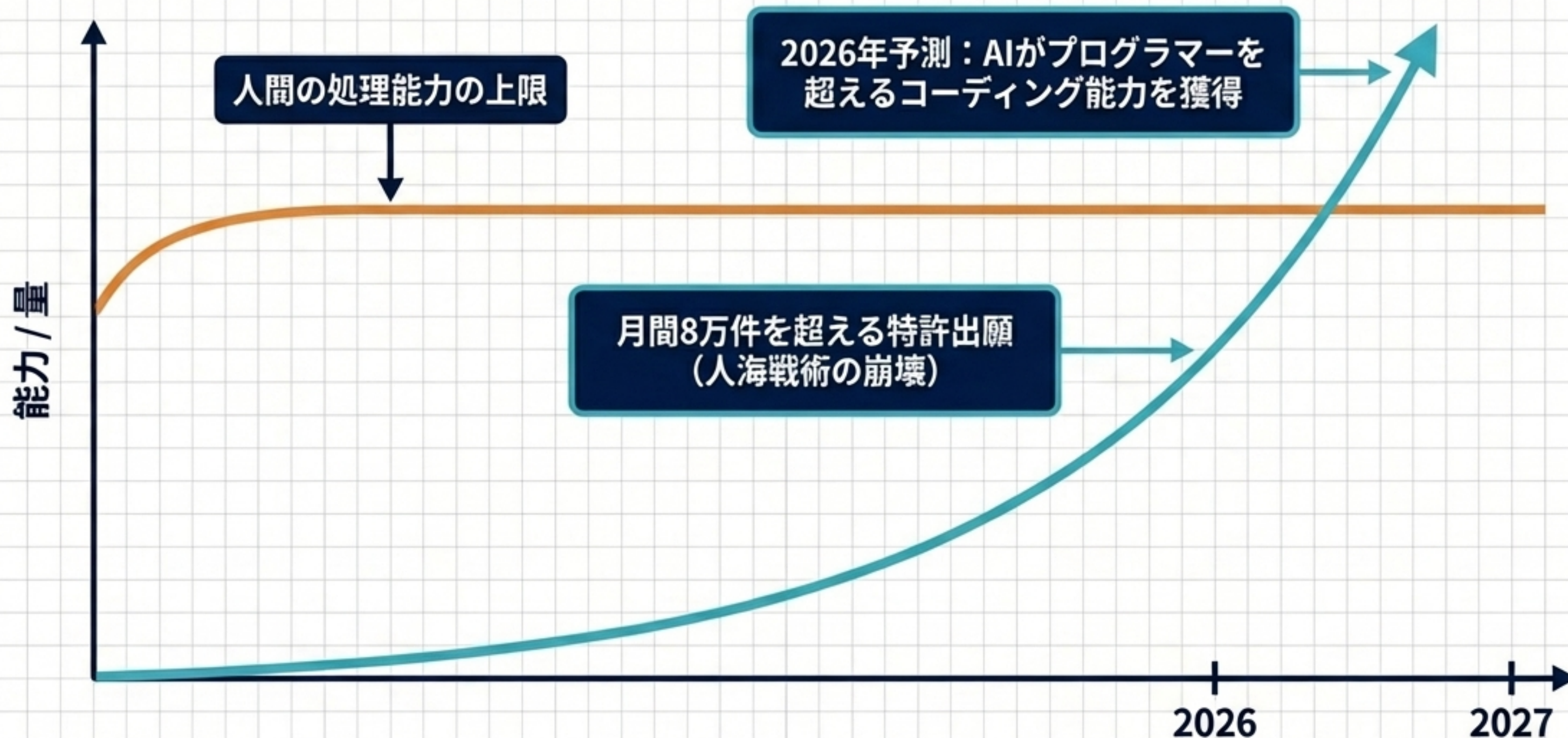


これからの実務 (Architect)

- 役割: AIと人間を組み合わせ、自律的ワークフローを設計
- 限界: AIの計算資源と戦略の質へシフト

AIを「便利な道具」ではなく、業務を自動遂行する「インフラ」として捉え直す。

変革を迫る2つの指数関数的トレンド



量の制約（人間の労働力）を前提とした従来の品質管理モデルは、数年以内に破綻する。

「量の制約」が消滅した世界における知財の問い

IF



数万件の特許の
読解と自律的な
対応関係の評価



自律的な検索式の
立案と特許調査
の実行



自社特許の価値評価と
分割出願方針の提案



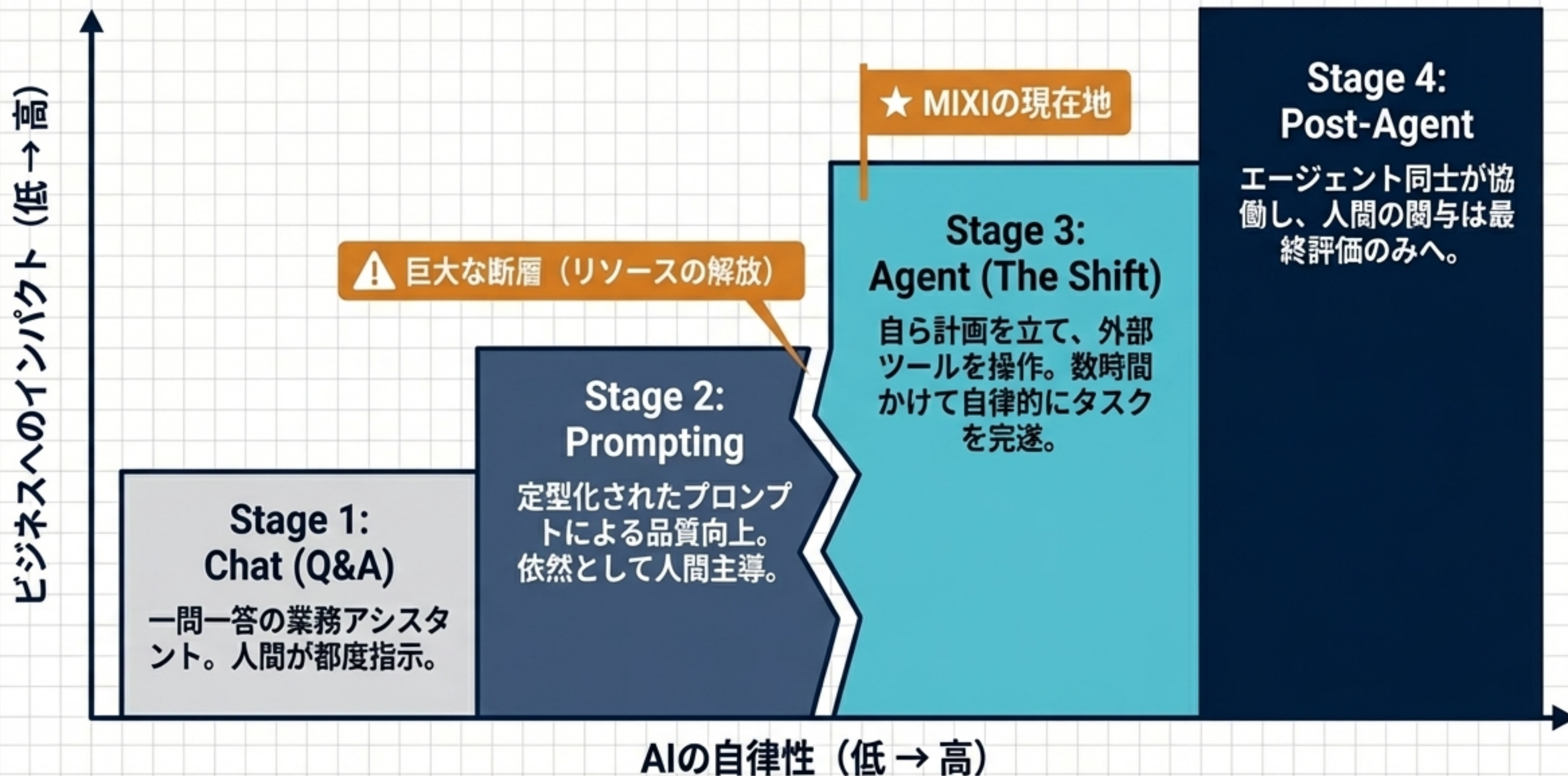
拒絶理由通知に対
する自律的な
応答案作成



数時間での
明細書ドラフト
完了

これらの作業が一瞬・ゼロコストで完了する前提に立った時、
知財部員に残される真の付加価値は「戦略の立案」に集約される。

AI活用における4段階の成熟度モデル



「AIチャット」と「AIエージェント」の構造的差異

AIチャット

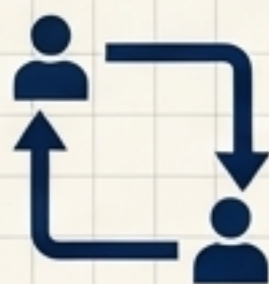
動作環境

ブラウザ内完結



プロセス

人間が細かく分割した指示（要点分析 → 対比表作成 → 意見書作成）を逐一入力し、出力を確認しては次の指示を出すループ。



人間の状態

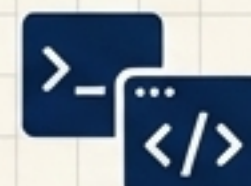
PCの前に「張り付き状態」



AIエージェント

動作環境

ターミナル・コードエディタ (VS Code)



プロセス

「この整理番号の拒絶対応をせよ」という1つの指示で、自ら計画を立て、ファイル操作・API連携・ドラフト作成まで一気通貫で実行。



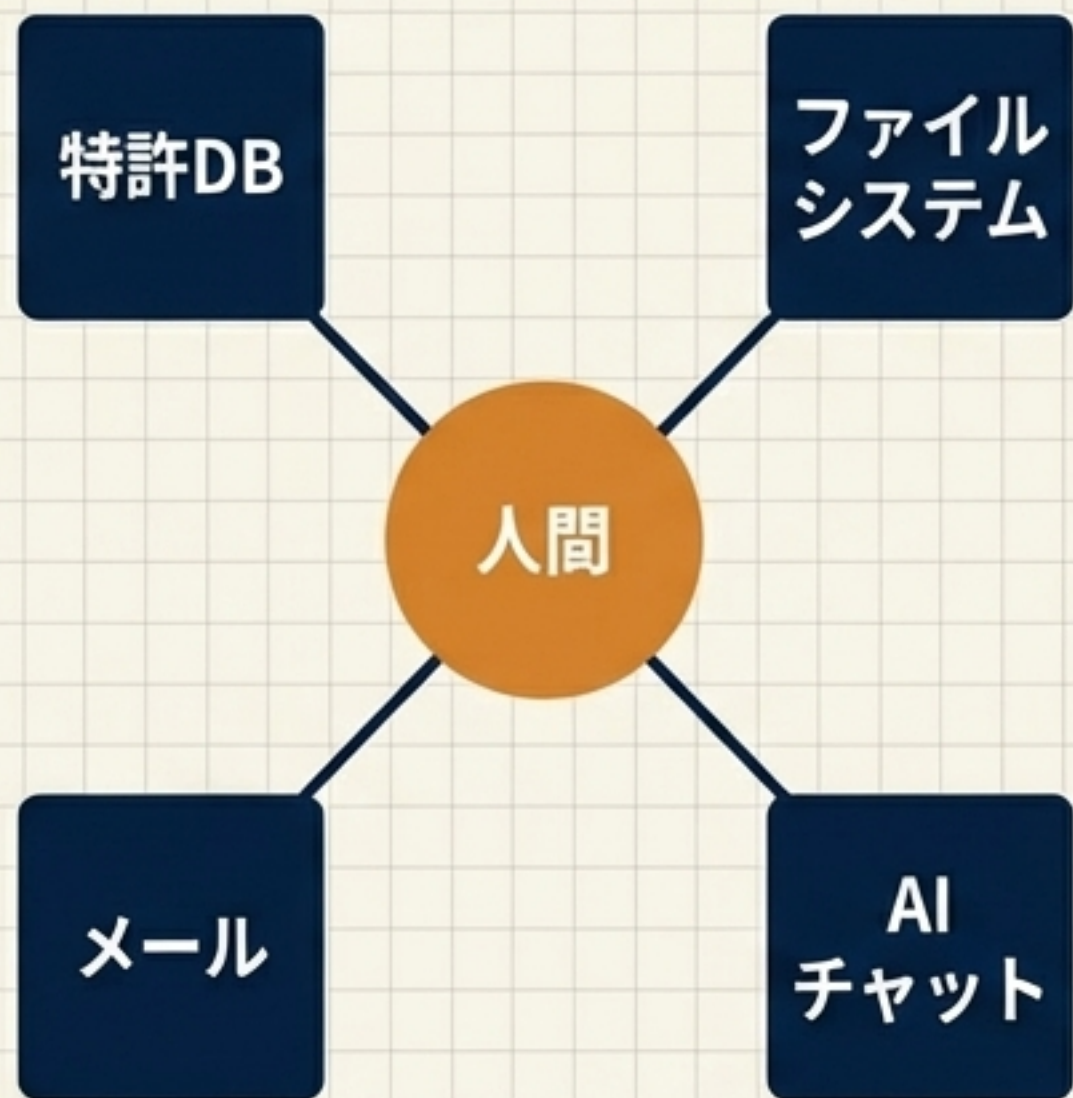
人間の状態

AIが稼働している間、人間は別の「戦略的思考」に時間を使える。



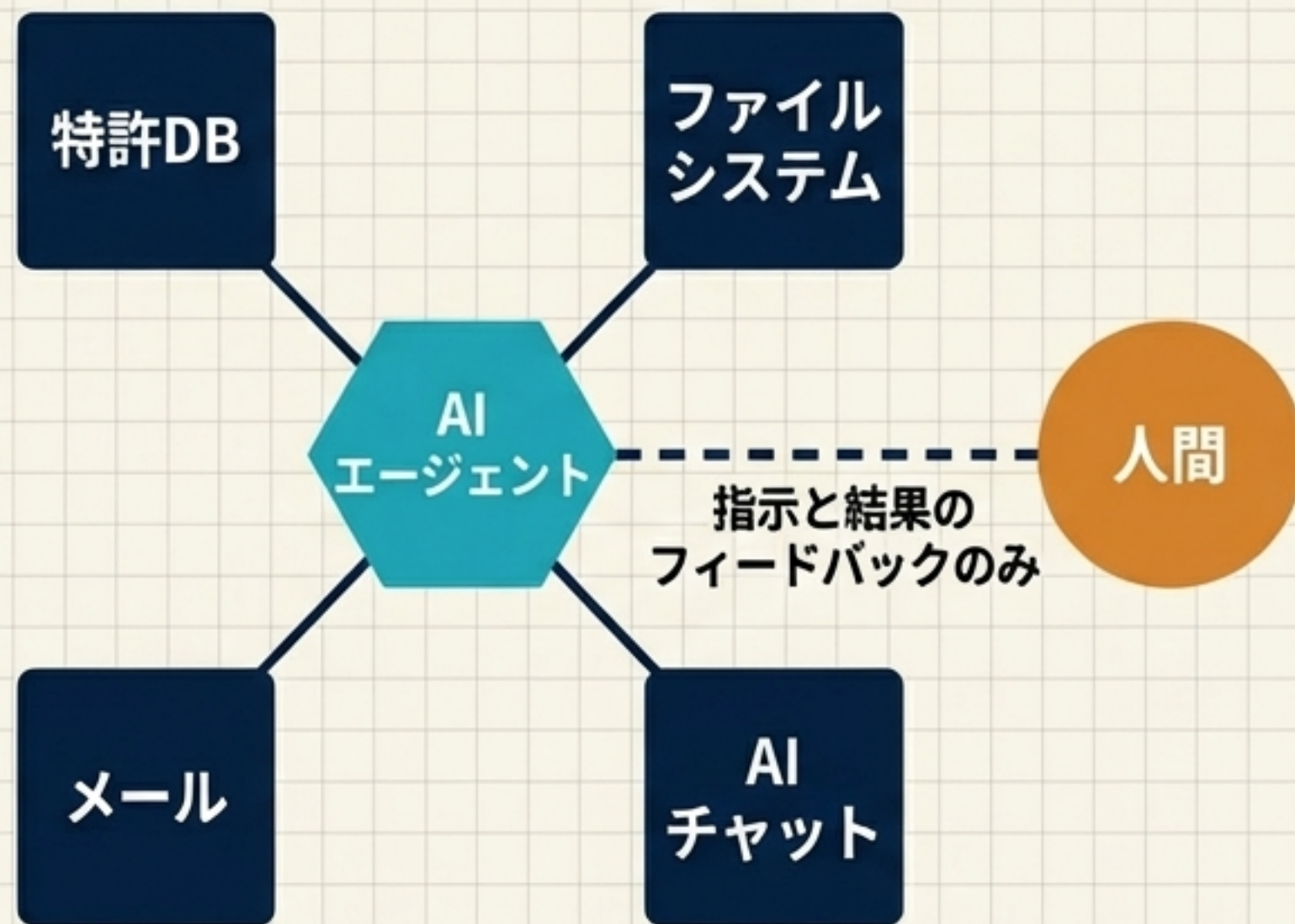
アーキテクチャの転換：誰がツールの「ハブ」になるか

従来型：人間中心の放射型



人間自身が各ツールにアクセス・操作する

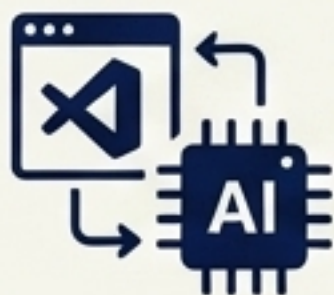
進化型：AIハブ型



AIがAPIを通じて各ツールを自律的に操作する

エージェントを駆動する「開発環境」の導入

知財業務をソフトウェアエンジニアの作業環境にアジャストさせる。



ツール: VS Code +
Claude Code

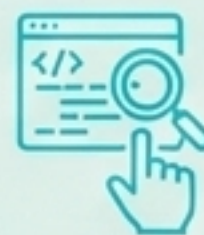


ターミナル上でAIを動かすことが自律実行の鍵

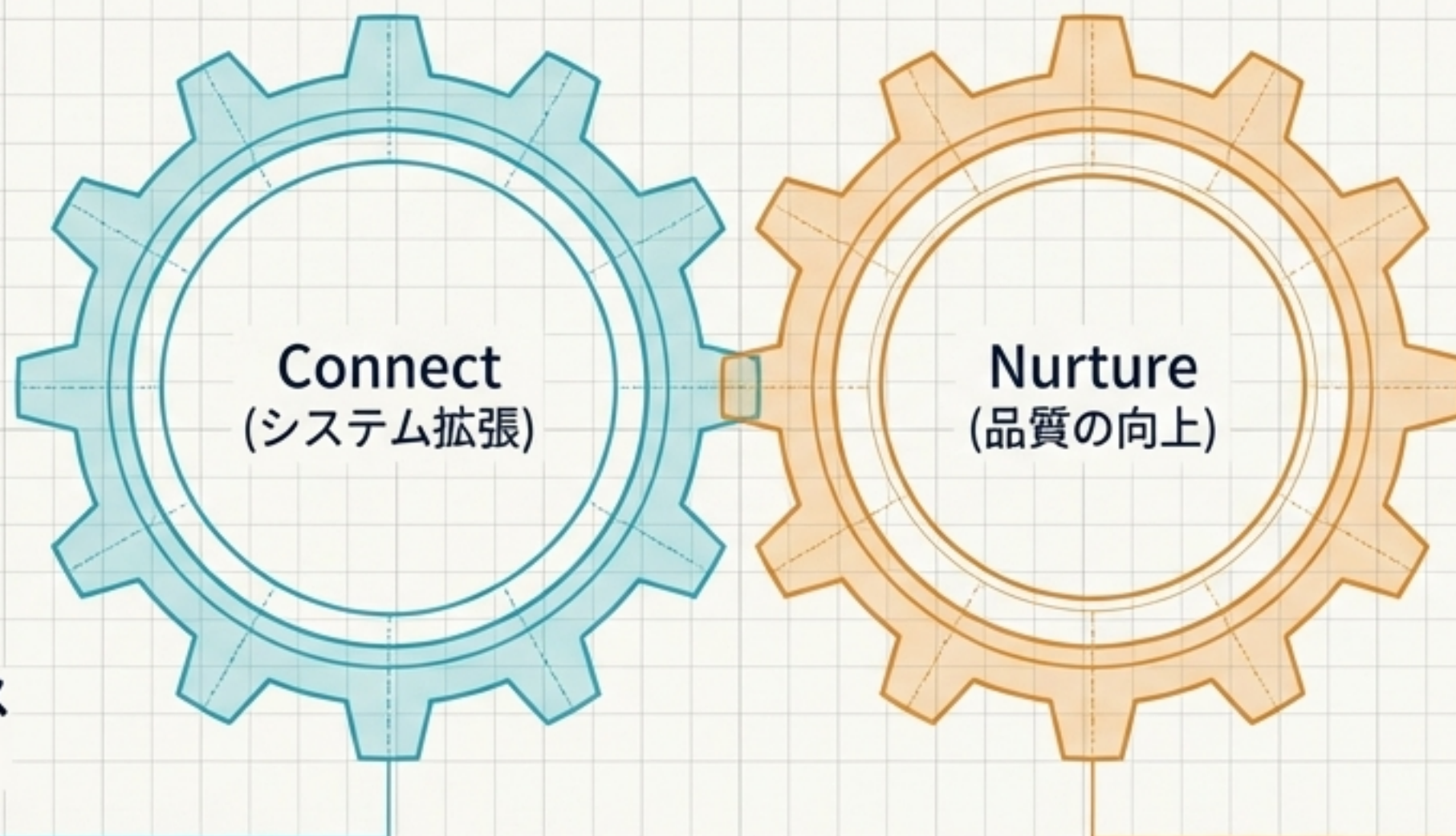
1. 自律的実行の圧倒的な強さ
(途切れることなく1時間以上処理し続ける能力)



2. コーディング領域で鍛え抜かれた高度な推論能力と
ファイル直接操作の確実性



実装のデュアル・エンジン：「繋げる」と「育てる」



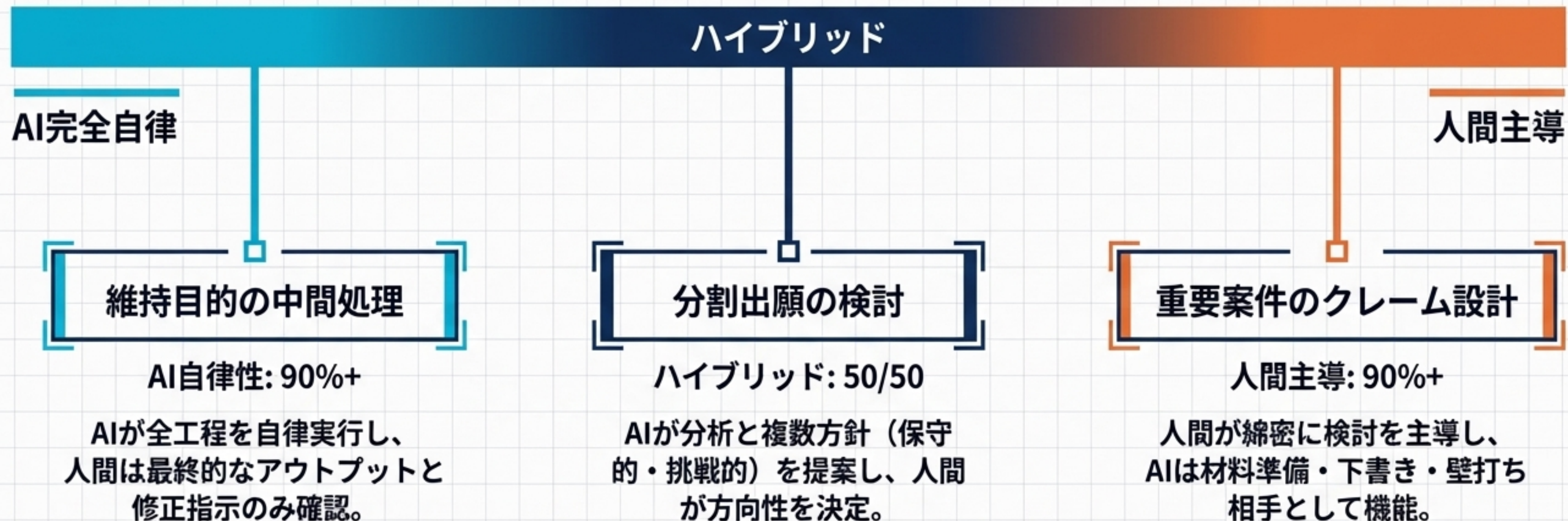
AIエージェントがアクセスできる手足を増やす。

- ファイルシステムへの直結
- 特許DBのAPI連携
- 社内管理ツールへの接続

一度の指示で終わらず、品質基準をAIにフィードバックし続ける。

- 一度の指示で終わらず、品質基準をAIにフィードバックし続ける。
- フォーマットと判断ロジックの注入
 - AIが修正を記憶し成長
 - 自社専用のプロフェッショナルへ育成

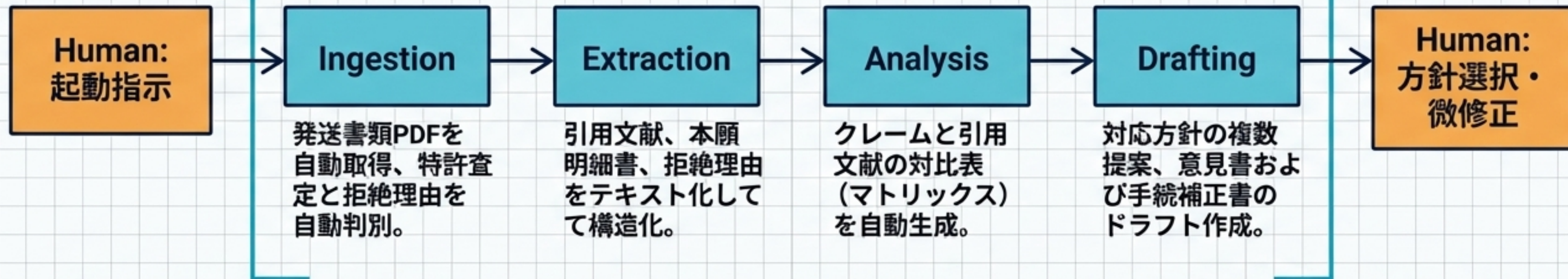
許容ライン・スペクトラム：AIへの「委任度」の設計



「すべてを人間がチェックする」ボトルネックを排除し、重要案件に人間のリソースを集中させる。

Case Study: 中間処理の自律型ワークフロー

Executed autonomously in ~1 hour by AI



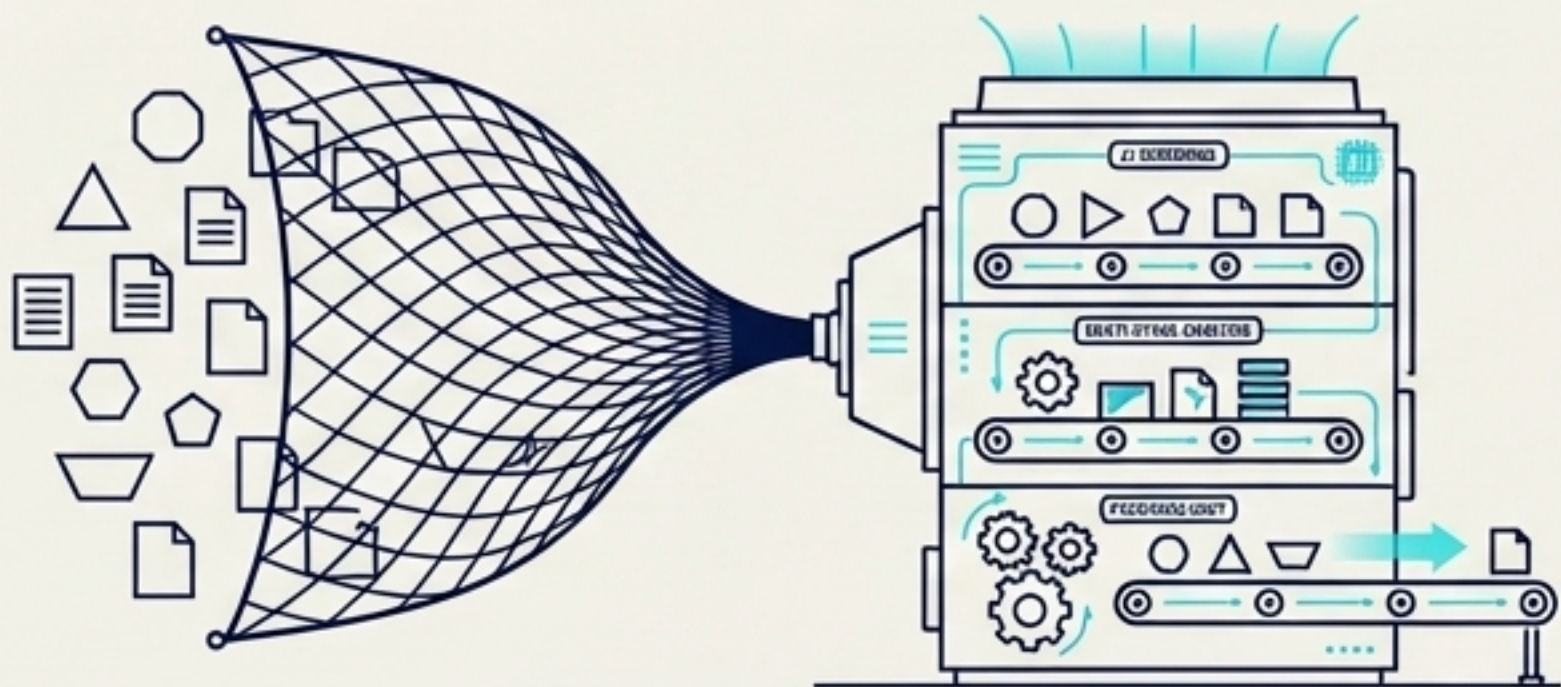
調査概念の転換：「絞り込む検索」から「全量処理」へ

Old Logic (Human-constrained)



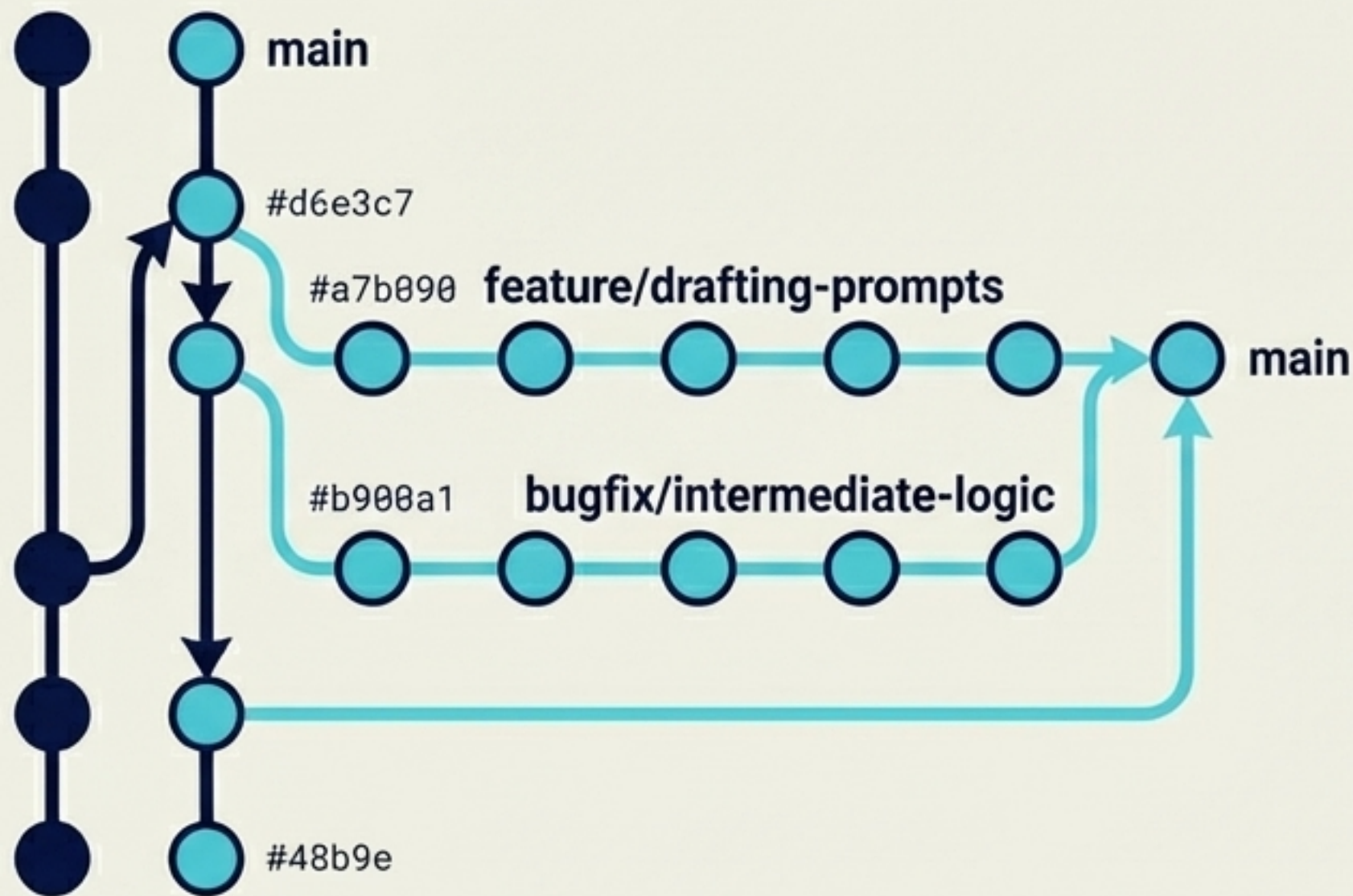
- 手法: ノイズを極限まで減らすための「複雑で精密な検索式」
- 理由: 人間が読める限界が500~1,000件だから。

New Logic (AI-enabled)



- 手法: 関連しうるものを広く浅く拾う「緩い検索式」
- 理由: ノイズが大量にあっても、AIが数千件の文文献の中身を読み、多段階のスクリーニングと精密分析を自動で行えるから。

会社の資産（ナレッジ）としてのプロンプト管理



明細書作成:
約 18,000行

中間処理: 約 9,000行

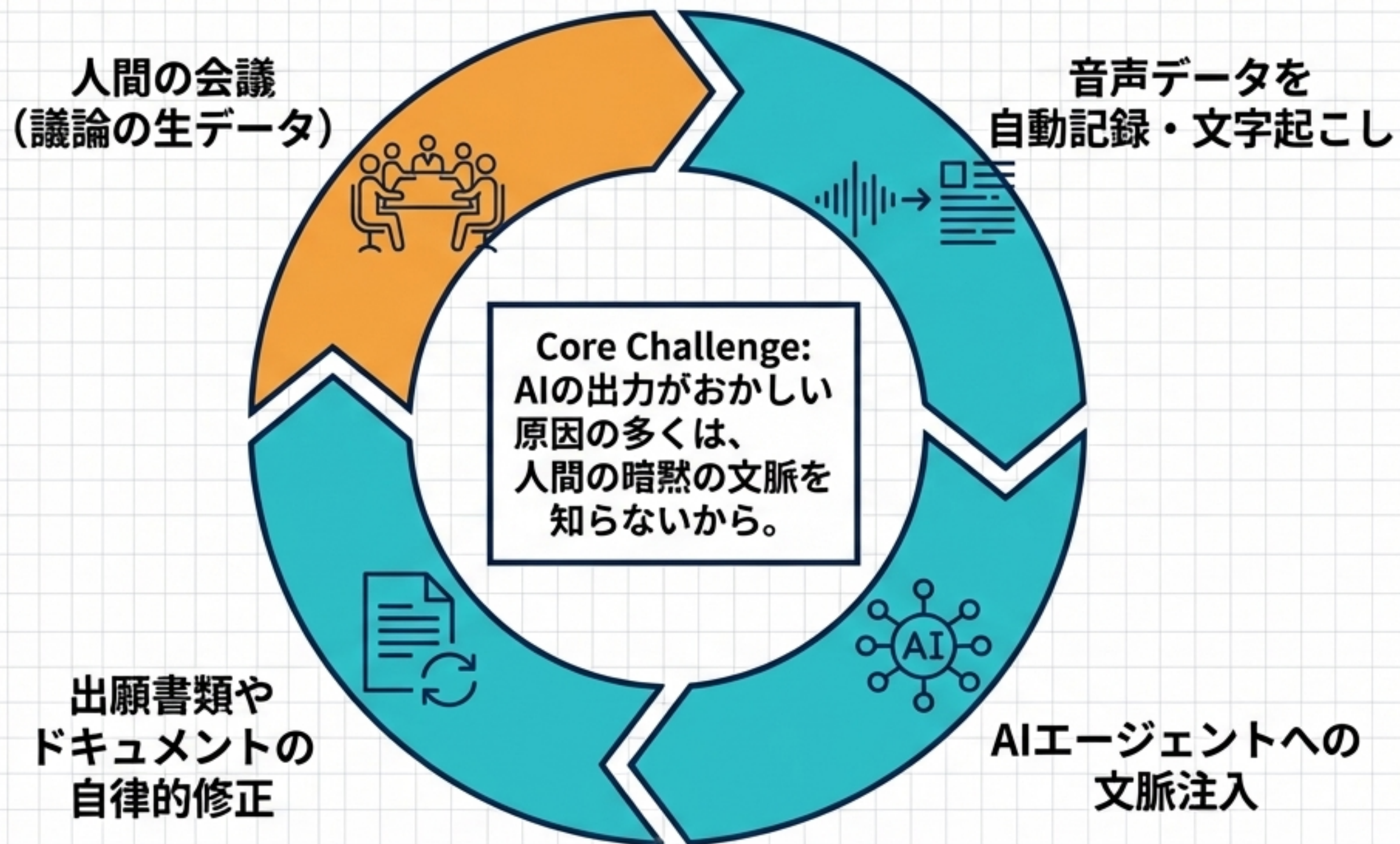
FTO調査: 約 10,000行

※これらは単なるテキストではなく、判断ロジックやスクリプトを内包したナレッジの塊。

Version Control (GitHub)

- 個人の思考錯誤を属人化させず、GitHubでバージョン管理。
- 常に最新・最良の「知財ロジック」にチーム全員がアクセスし、エージェントを稼働させることが可能。

AIへの「コンテキスト」のシームレスな注入

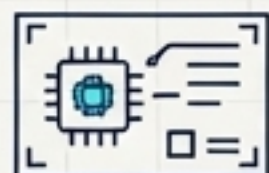


MIXI's Hack

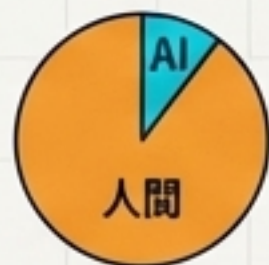
- ミーティング音声をデフォルトでAIに記録させる
- 議事録ではなく「議論の生データ」をAIに直接投入
- 文脈を理解したAIが自律的に書類をアップデート

知財組織の3つの進化モデル

Model A (人間中心型)



AIの役割
限定的なサポート・下調べ



業務比率
人間 90% / AI 10%

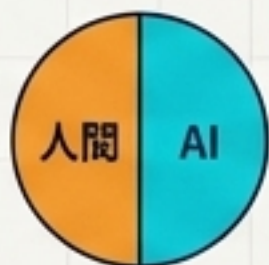


組織の価値
確実な「処理量」の担保

Model B (ハイブリッド型 - MIXIの現在地)



AIの役割
作業の共同遂行・
エージェントの導入



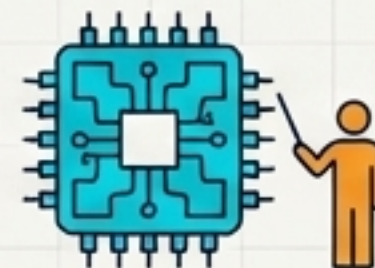
業務比率
人間 50% / AI 50%



組織の価値
スピードと効率の最大化

Model C (AI精鋭型 - MIXIの目標)

AIの役割
大半の作業実行

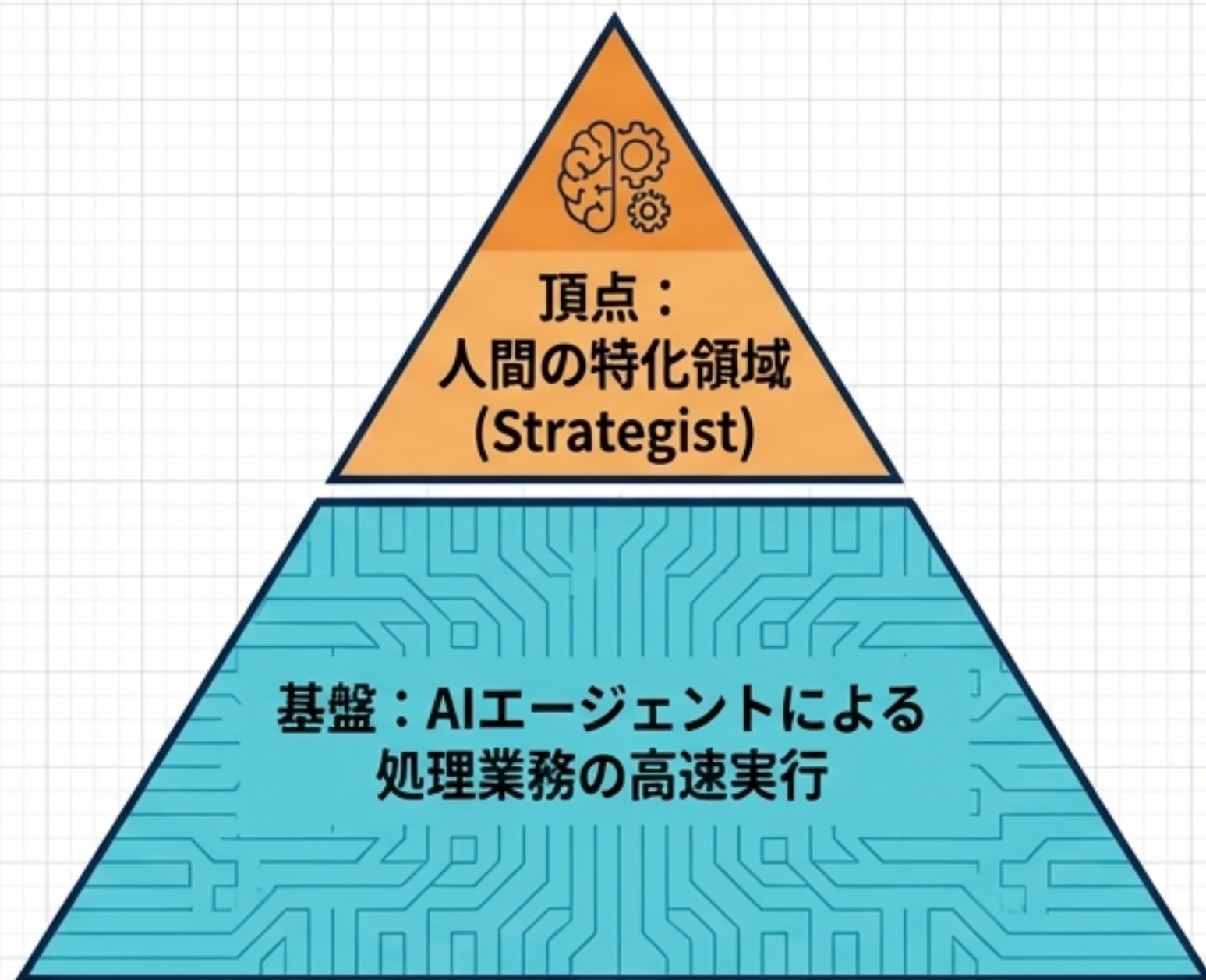


業務比率
人間(司令塔) 20% /
AI(実行力) 80%



組織の価値
経営に直結する
「知財戦略」の提言と実行

知財部門の提供価値の再定義



事業戦略との接続

事業部が何を目指し、どこに投資しているかを踏まえたポートフォリオの構築。

企業価値への貢献

単なる「特許の数」ではなく、株価や企業競争力に直接寄与する知財活動へのシフト。

人間の真の価値は「AIの出力を評価できる高い専門性」と「経営の視点を持った問いを立てる力」に集約される。

「5人で30人分の成果を出す」組織へ

AIは単なる業務アシスタントではありません。

自律的に動き、学習し、組織の能力を指数関数的に増幅させる「戦略的パートナー」です。

AIの能力が完全に我々を凌駕する前に、業務を再設計し、自律型ワークフローを実装した

組織だけが、次の時代における圧倒的な競争優位性を獲得します。

「使いこなした者勝ち」のフェーズは、すでに始まっています。